

教科書ベースでありながら、内容の伝達・理解に終始しない、教師の主体的な教材研究と子どもの探究的な学びに開かれた「日本型教育」の視点を活かして、カンボジアの「教科書の編集・活用システム」の構築を支援する。その中核は、①教育課程・教科書開発、②教科書編集・出版、③教員養成・研修の三つをつなぐ人材養成プログラムの実施である。本取組を通して、社会科教科書を自立的に構想・出版できる編集者やそれを使いこなす教師を育成する。

事業コンセプト

現在、カンボジア教育省は、教育課程・教科書の改訂や4年制教員養成大学の新設による教育の質向上を図っている。本事業は、カンボジアにおいて教師の主体的な教材研究と子どもの探究的な学びを実現するために、一貫した方針のもとで日本型「社会科教科書の編集・活用システム」を担う人材の育成を推進する。

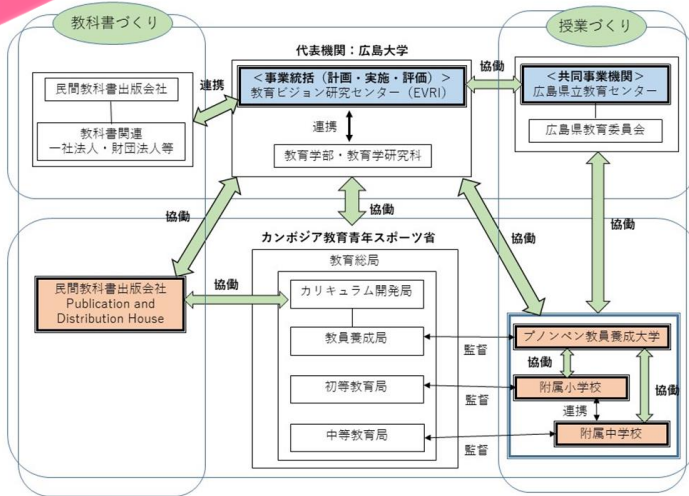
今年度の実施内容・アウトプット

○ 現地教科書出版会社と新社会科教科書モデルの共有

2018年12月と2019年2月に、広島大学と現地教育省カリキュラム開発局は、現地教科書出版会社と5つの新教科書モデルを共有し、日本型社会科教科書のデザイン原則の現地化を推進した。単元は、中学校3年生地理「カンボジアの経済」、小学校6年生地理「位置の座標」、中学校3年生歴史「民主カンブチア」、小学校6年生道徳・公民「地雷と不発弾のある地域での安全確保」、中学校2年生家庭・経済「失業と就業」であった。



実施体制



○ 現地教員養成大学・附属学校で授業研究の実施

教員養成大学附属学校等において、広島県教育委員会の指導主事が現地教員や教科書開発者と共働で授業研究を行い、のべ83名が新教科書モデルのよさを実感した。また、同研修は、社会科の教員養成を担う教師教育者と同附属学校教員がよりよい授業像を共有する場ともなった。



今後の展望

- 2019年度末までに、現地教科書出版会社は、計9つ開発される新教科書モデル案をもとに、日本型社会科教科書のデザイン原則を現地化する。
- 授業研究をとおして、特に教師教育に注目した新教科書モデルの有効性が検証される。
- 先行事業であるJICA草の根事業の成果と併せて、教育省カリキュラム開発局は、一連の研修内容とプロセスを教科書出版・活用マニュアルとして取りまとめる。

国立大学法人広島大学

教育ヴィジョン研究センター/大学院教育学研究科 桑山尚司

(082-424-6783 kuwayama@hiroshima-u.ac.jp)